



青山学院大学 文学部
比較芸術学科

— Department of Comparative Arts —



比較芸術学科 2025

青山学院大学文学部



—— 比較芸術学科に関するお問い合わせ先 ——

【文学部 比較芸術学科】〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 Tel 03-3409-9527
<https://www.aoyama-comparative-arts.jp/>

比較芸術学科

およそ人の手になる作品は、ジャンルを問わず、何らかのメッセージを内包し、受け手に向けて発信しています。たとえそれが古(いにしえ)に生み出されたものであっても、現代の私たちがその作品と向かいあい、それが心に刺さったならば、まさしく、時代と空間を越えてメッセージが届いたといえるでしょう。あるいは先人が気付かなかった新しいメッセージの発見に繋がることも多々あります。ただし、それは必ずしもすべての受け取り手に等しく届くものとは限りません。そのためには、まず五感を研ぎ澄ませて感受性を高めることがそれぞれに要請されることになるでしょう。

本学科は、「美術」「音楽」「演劇映像」という3つの領域で構成されています。いずれの領域においても、人の営為によって生み出され享受されてきたさまざまな作品と向かい合うこととなります。その際、各領域内での研究にとどまることなく、領域相互の、さらには文学をはじめとする関連諸学との「比較」を行い、その学びと体験を深めることで鑑賞の経験値を上げることをめざします。もとより、そこで完結することなく、言葉を紡いで第三者に自己の感動と考えを伝えることを通じ、それぞれが豊かな人間力を開拓してゆくことをモットーにしています。



学びの特色

「比較学習」「古典重視」「鑑賞教育」を学びのコアとして、3つの領域を相互に関連させ、理論学習と体験・実践学習とを組み合わせながら学び深めていきます。

1年次	2年次	3年次	4年次
専門基礎科目(必修)			
専門選択科目			
美術領域		西洋美術、日本・東洋美術を対象とし、2年次に「基礎演習」3・4年次に「演習」を中心に学んでいきます。	
音楽領域		西洋音楽、日本・東洋音楽を対象とし、2年次に「基礎演習」3・4年次に「演習」を中心に学んでいきます。	
演劇映像領域		日本の古典芸能、西洋演劇、映像・映画を対象とし、2年次に「基礎演習」3・4年次に「演習」を中心に学んでいきます。	
選択科目			

3つの領域と主な科目

21世紀を生きる私たち。その五感を刺激する古典を中心とした芸術を比較学習・研究する「新たな学び」が始まっています。



カリキュラムガイド

カリキュラムの特徴

「比較学習」「古典重視」「鑑賞教育」の3つに集約されます。「比較学習」は、3領域それぞれの時代的・地域的比較はもとより、領域相互の比較検討、そして他の人文諸学との比較も含まれます。芸術が本来、各ジャンルの相互関連により成り立っていることを前提としたものです。「古典重視」は文字通り東西の古典テキストの読解を重視することです。「鑑賞教育」は生の芸術作品の鑑賞を踏まえた教育です。これら基礎の段階から徐々に専門へと、段階を追ってカリキュラムは設定されますが、大切なことはまず固定観念を棄てること、そして改めて自分にもっとも合った専門領域を選択していくことです。結果としてそれは、学生諸君の以後の幅広い芸術的視野からの学習・研究を可能とし、将来的には社会への着実な貢献を約束してくれるでしょう。

学科科目(必修)	20単位
学科科目(選択必修)	50単位
外国語科目	8単位
青山スタンダード科目	24単位
自由選択科目	26単位
卒業要件単位	128単位

学びのポイント

芸術を「比較」しながら学ぶ

「比較」による学習・研究は、この学科の学びの基本です。1年次の「比較芸術学入門」は、本学科の専任スタッフと一部非常勤講師によってオムニバス形式でおこなわれるもので、展覧会や演奏会、舞台、映画などの鑑賞を前提に、その解説とレポート作成によって「美術」「音楽」「演劇映像」の実際を比較しながら体験的に学びます。1・2年次の「各領域と文芸」でも、2分野以上を選択することで各領域と文芸との関係とそれぞれの本質を学びます。

古典テキストを読む

本学科は生の芸術作品を鑑賞することと並行して、古典テキストの読解にも力をいれます。芸術作品はいわば歴史や文化の「非文字資料」ですが、やはりそれらの編年や意味の詳細を理解するには文字資料であるテキストの読解が不可欠です。ある国の美術や音楽、演劇映像を真に理解するには、その国々の言語を理解せずして済ませることはできません。「原書講読」では英語はもちろん、漢文・古文のテキストもとり上げます。

文章のデッサン力を鍛える

この学科では1年次の「比較芸術学入門」から3・4年次の「演習」にいたるまで、生の作品鑑賞を基本とする学習・研究を積み重ねます。そこでの鑑賞レポートはたんなる感想文ではなく、その作品が具体的に美術なら形体や色調、構図その他、音楽なら楽器や声の音色、アンサンブルその他、演劇なら役者の所作やせりふ回しその他等々、細部にいたる観察による言語化(ディスクリプション)の訓練を義務づけ、言葉のデッサン力の獲得を目指します。

芸術鑑賞の基本を学ぶ

「芸術鑑賞の方法」では、そこに何が表され、何を意味しているのかという美術解釈の基本となる図像学をはじめ、具体的な美術作品の調査法、絵画や彫刻の簡単なデッサンの技法、西洋音楽や日本伝統音楽の楽曲分析、古い楽譜の解読や演奏法、日本古典芸能や西洋演劇では演技者や舞踊家による実技を前提とした所作や動きの意味、道具の役割など、作品鑑賞に必須の基礎知識を学びます。

1年次

鑑賞教育の基礎を学ぶことにより、I美術・II音楽・III演劇映像それぞれのジャンルの通史的な理解を前提に、それと同時代の諸文芸との関連を比較・学習することで芸術系3領域それぞれの特性のより明確な把握を目指す。

2年次

各領域における「基礎演習」「原書講読」「鑑賞の方法」などの専門科目の比較学習・研究を徹底することにより、各領域それぞれの共通性や異質性への学問的認識を深める。

3年次

2年次よりひきつづき、比較学習、研究を徹底する。各領域の専任教員のもとで本格的な演習の履修がはじまり、より専門性の高い教育内容の修得を目指す。

4年次

各領域ゼミナールとも選択必修科目の「特別演習(卒業論文)」により卒業論文(本文2万字程度)の作成指導をおこない、専門的研究の出発点とする。各専門領域の知識のさらなる修得に努める。

専門基礎科目	比較芸術学入門A/比較芸術学入門B/西洋の文芸と美術A 西洋の文芸と音楽A/西洋の文芸と演劇映像A/ 日本・東洋の文芸と美術A/日本・東洋の文芸と音楽A/ 日本・東洋の文芸と演劇映像A		芸術と文学/芸術と法		※領域は次のように表されます。 I 美術/II 音楽/III 演劇映像	
	(イ)	西洋の文芸と美術B/西洋の文芸と音楽B/西洋の文芸と演劇映像B		/日本・東洋の文芸と美術B/日本・東洋の文芸と音楽B/日本・東洋の文芸と演劇映像B		
専門 選択科目 <small>(イ)～(ホ)までは上記による、2つ以上の領域から単位を取得すること</small>	(ロ)	基礎演習 I(1)(2)(3)、II(1)(2)、III(1)(2)(3)				
	(ハ)	原書講読 I(1)(2)(3)、II(1)(2)、III(1)(2)(3)				
	(ニ)	[芸術鑑賞の方法 I] (1) 絵画の制作を通じた美術作品の鑑賞法 [芸術鑑賞の方法 II] (1) 中世・ルネサンス・バロック音楽の記譜法 [芸術鑑賞の方法 III] (1) 歌舞伎と歌舞伎舞踊の表現や仕組み		(2) 西洋美術作品の鑑賞法と鑑賞発表 (3) 国内外の美術館・博物館の成立史と鑑賞法 (2) バロック音楽における修辭学 (3) 民族音楽学・音楽人類学からみる世界各地の多様な文化 (2) 歌と踊りのない演劇はなぜヨーロッパで生まれたのか (3) 映画におけるドキュメンタリーとフィクションについて		
	(ホ)	[比較芸術学特講 I] (1) キリスト教文化における造形イメージのあり方 (6) 日本中世近世絵画における「描かれた祭り」と名所 [比較芸術学特講 II] (1) 近代フランス音楽の「三大作曲家」フォーレ (5) リヒャルト・ワーグナー 歌劇「タンホイザー」 [比較芸術学特講 III] (1) フランスの演劇人「ヴァレール・ノヴァリナ」		(2) イメージとマテリアリティ(物質性) (3) 西洋美術史学の方法と歴史 (4) 近現代彫刻史とその展開 (5) 日本文人画と近代の「東洋憧憬」 (7) 神像彫刻の出現と展開 (8) 日本における「異神の図像学」 ・ドビュッシー・ラヴェル (2) 義太夫狂言の音楽的な特徴 (3)・(4) チャイコフスキーのオペラ《エヴゲニー・オネーギン》の楽曲分析 「ロー・エングリ」研究 (6) オペレッタ研究 ヨハン・シュトラウス二世「こもり」フランツ・レハール「メリー・ウイドウ」 作品分析 (2) 西洋近現代演劇における「祝祭」概念の変遷 (3)・(4) 「歌舞伎における悪」 (5)・(6) アメリカと日本の映画通史		
	(ヘ)	比較芸術学演習 I(1)(2)(3)(4)、II(1)(2)、III(1)(2)(3)				
	(ト)	特別演習(卒業論文)				
選択科目	美学・芸術思想/西洋の宗教と芸術/日本・東洋の宗教と芸術		博物館実習I/博物館実習II ※3年次・4年次のみ履修可能			
外国語科目	英語講読 I/英作文	英語講読 II/オーラル・イングリッシュ				
全学共通科目	青山スタンダード科目 学部・学科の所属に関わりなく、専門領域を越えて様々な学問分野の知識を身につけます。					
自由選択科目	学科科目、青山スタンダード科目、外国語選択科目の必要単位以上の履修、文学部共通科目、文学部他学科、他学部開講科目の履修が可能です。 勉強したい科目を自由に選択し、卒業に必要な単位とすることができます。					

美術

美術と他の芸術との違いはどこにあるのでしょうか？

洞窟壁画にしても、ギリシア彫刻にしても、飛鳥時代の仏像にしても、経年による外見の変化こそありますが、“モノ”として今も存在し続けており、観る者の心に直接訴えてきます。それは時の隔たりを忘れてしまうほどです。

さらに作品には、もう一つの重要な側面があります。どのような作品であっても、それは“時代の鏡”であり、それを生み出した社会のありようを反映しています。たとえば、市民階級が成熟して美術の主な受容者に成長した17世紀のオランダでは親しみやすい分野である風景画、風俗画、静物画が独立して流行しました。また、江戸時代の日本でも庶民に浮世絵が受け入れられて大いに発展を遂げました。

作品は“美術それ自体の歴史”にも深く組み込まれています。一見、どれほど独創的に見えようとも、程度の差こそあれ、過去に生み出された作品の伝統に連なっているからです。作品の真の理解には、美術の歴史を知ることが不可欠です。

加えて、作品は“時代に規定されている”と同時に、“時代を超越した存在”でもあります。さまざまなアプローチを通じて多角的に作品を理解することを目指したいと考えます。

西洋美術

古代から現代まで欧米圏で制作されてきた様々な造形作品の歴史と展開を、それぞれの時代や社会のあり方に照らしつつ多角的に学びます。作品を感覚で捉えるだけでなく、その形態や構図を分析し特徴を言葉で記述すること(様式分析)、作品の意味作用(図像学、図像解釈学、記号論)や多様な機能、受容のあり方を考察しつつ、作品に向き合う柔軟な思考を培います。

日本・東洋美術

今日まで、日本や東洋にはさまざまな形的美術が生み出されてきました。日本美術では様式変遷とその歴史的背景を振り返ります。東洋美術では日本美術と関係の深いもの—仏教美術や水墨画、工芸ほか—に焦点をあて、その理解を深めるとともに、日本美術との比較を通して互いの特色を考えます。

Message

Chiyori Mizuno



水野 千依

京都大学大学院文学研究科美学美術史学専攻博士後期課程単位取得退学、フィレンツェ大学、日本学術振興会特別研究員、京都造形芸術大学教授を経て、2015年より現職。博士(人間・環境学)。専門は、イタリア中・近世美術史・芸術理論。主著・共著に、「イメージの地層」(名古屋大学出版会、2011年)、「キリストの顔」(筑摩書房、2014年)、「聖性の物質性」(三元社、2022年)、「はるかなる「時」のかなたに」(同、2023年)、主な訳書に、ディティ=ユベルマン「残存するイメージ」(人文書院、2005年)、セヴェーリ「キマイラの原理」(白水社、2017年)など。「イメージの地層」で、第34回サントリー学芸賞、第1回フォスコ・マラーニ二賞、他受賞。



西洋の美術、なかでも中世からルネサンスにかけてのイタリア美術史を専門に研究しています。目下、フラ・アンジェリコについての単著を執筆中です。美術作品というと、私たちはまず「美しいもの」として鑑賞する対象だと考えがちです。しかし、Artという言葉が「美術」を意味するようになったのは近代以降のことで、古くは「技芸」をさしていました。現在、美術館に収められ、鑑賞対象として眺められている作品の多くは、かつては崇拜対象だったり、神への捧げ物だったり、呪術力や奇跡力など、美的価値にとどまらない力をそなえ、見るものに、崇敬、畏怖、祈願、呪詛、魅惑…といった多様な感情をかき立ててきました。私は、こうした近代以前の造形物を、伝統的な美術史学の手法で理解するとともに、それらがかつて人々の生活のなかでいかに息づき、いかに人々にはたらきかけてきたのかを、歴史人類学的視座から考え直したいと思っています。それぞれの時代がいかにイメージを生きてきたのかを問うことは、同時に、何を「美」としたのかを理解することにもつながります。西洋美術の歴史を辿りながら、イメージと人間が取り結ぶ豊かな関係を一緒に考えていくことができれば幸いです。

池野 絢子

京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了。博士(人間・環境学)。専門は西洋を中心とした近現代美術・視覚文化。とくに20世紀イタリアの美術を研究している。単著に「アルテ・ポーヴェラ——戦後イタリアにおける芸術・生・政治」(慶應義塾大学出版会、2016年)。分担執筆に木俣元一・松井裕美編「古典主義再考II 前衛美術と「古典」」(中央公論美術出版、2021年)小田原のどか編「彫刻2——彫刻、死語 / 新しい彫刻」(書誌九十九、2022年)など。

西洋を中心とした近現代美術を研究しています。20世紀美術の面白いところは、「美術」という枠組にはおさまりきらない越境的な性格を持っている点です。従来の「美」という価値基準では理解できない、びっくりするような作品がたくさん生まれました。私はそうして生み出された芸術作品が、政治や社会と切り結ぶ関係に興味を持ち、第二次世界大戦後の美術を例に研究してきました。最近では、世界大戦下の前衛芸術の変容に関心を寄せています。現代美術は難しい、わからないと評判ですが、そもそも歴史上、あらゆる美術はかつて現代美術でした。今は名画とか傑作と呼ばれる作品が、発表当時には批判の対象であったことも少なくありません。頭と心と眼を柔らかくして、未知の、新しい価値を理解する楽しさを知ってもらえたらと願っています。

Ayako Ikeno



津田 徹英

慶應義塾大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得済退学。のち同大学より博士(美学)を取得。専門は日本彫刻史、密教図像学。研究対象と関心は、とくに東アジアの文物交流を見据えつつ、奈良時代から平安時代(8世紀~12世紀)に及び密教彫刻とそれにかかわる文化事象を研究の中心に据えている。さらに、中世(鎌倉・南北朝時代)の異形の神像と肖像研究(彫刻・絵画)、絵巻研究にも及んでいる。単著に「中世の童子形(日本の美術442)」(至文堂、2003年)、「平安密教彫刻論」(中央公論美術出版、2016年)、編著に「組織論—制作した人々(仏教美術論集)」(竹林舎、2016年)、共著に「アジア仏教美術論集 東アジアⅦ(アジアの中の日本)」(中央公論美術出版、2023年)ほか多数。



これまで様々な機会に様々な作品を知る機会があったと思いますが、果たして、その実物を見たことはあるのでしょうか？美術全集や図録で作品を見ることは、その作品を知るきっかけになります。しかし残念ながらそれは本当の作品との出会いではありません。まずは美術館・博物館あるいは神社仏閣の宝物館などに足を運んで、実物の前に立って自分の眼で見て対象を感じ取ることから始めましょう。図版で見ているだけでは気がつかなかった新しい発見がそこには必ずあります。作品を前にして「いいなあ」と心惹かれたら、次は何故、自分はそれに魅力を感じたのか、内なる自分に真摯に問っていただくことです。人は誰もが同じようには感じ取っている訳ではありません。そこに個性があるといっても過言ではありません。かつ、数多く見ることで経験値が上がり、感性が研ぎ澄まされて行きます。対峙した作品のどこを見るべきかは自然と身についてゆくはずで、それが鑑賞の望ましいありようであり、“作品の前に立つ”ということなのです。

Sachiko Idemitsu



出光 佐千子

慶應義塾大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得済退学。博士(美学)。専門は日本絵画史。研究テーマは、江戸時代の水墨画の巨匠・池大雅の風景画をめぐる詩と画の鑑賞サークル。現在は、大雅が憧れた室町水墨画や、近代南画(小杉放菴)、人々の暮らしを描いた風俗画にまで関心が広がる。著書に「池大雅「真景」論攷」(中央公論美術出版、2023年)、展覧会図録「生誕300年記念 池大雅—陽光の山水」(出光美術館、2024年)、共著に「風俗絵画の文化学」I・II・III(思文閣出版、2009年、2012年、2014年)。

入学して来る1年生のほとんどは、日本美術にあまり触れたことがないはずなのですが、1年生の授業の終わる頃には、「この屏風にしびれました。」と、こちらの期待以上の良い作品を選んで、文章を書いてきてくれます。今まで知らなかっただけで、皆さんの中に眠っている日本人の感性が目覚めるからなのでしょう。水墨画もじっくり鑑賞すると、筆の動きや墨の濃淡によって、光や大気のうつろいや、川のせせらぎなど、日本人の心の琴線に触れる何か立ち現れてくるのです。授業では、画だけではなく、添えられた詩や書の鑑賞を通じて、時代を超えて生き続けている名画の力を一緒に味わい、「かたち」に隠された古典文学や享受者のまなざしについても考えていきたいと思います。



音楽

かつてヨーロッパで生まれ、長年にわたって発展した音楽を、我々は一般的に「クラシック音楽」と呼び慣わしています。この「クラシック」という言葉は、広義には古代ギリシャに遡る芸術作品、とくに時代の風雪に耐えて生き残ってきた名作、すなわち「古典」作品を指しています。

もっと狭い意味においては、18世紀後半から19世紀初頭、数十年の間に、バッハ、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンという、綺羅星のごとき音楽家が次々と活躍し、後世に遺る名作を書いた時期も「古典派」と呼ばれています。

これは、とりもなおさず、この時期に生まれた音楽が、現代において次々と生まれる音楽の基礎であることも意味しているのです。

すなわち、「古典」を学ぶことは、現代社会に住む我々が享受している文化を知るために避けては通れない道なのです。故きを温めて新しきを知る。由緒ある、音楽という名の学問に、あなたもともに取り組んでみませんか。

西洋音楽

古代ギリシアから現代にいたる西洋音楽について、名曲を学ぶことはもちろん、政治・宗教や他の芸術との関係、音楽理論や楽譜の変遷、音楽家という職業、楽器とその演奏法、楽譜出版・演奏会、録音技術の影響など、多角的な視点から考えることにより、音楽芸術についての幅広い知識と鋭い洞察力を養うことをめざします。

日本・東洋音楽

日本や東洋には様々な楽器や歌による音楽、仮面舞踏や音楽劇のような他の芸術と関連した多種多様な音楽があります。これらを理解し、その音楽を生み出した人々の美意識や社会的背景、各楽器や楽譜などの伝承方法と現代への変化の過程などを比較・検証することで、人間と音楽の関係を考え、豊かな感性を養うことを目指します。

Message

那須 輝彦

立教大学大学院文学研究科博士後期課程退学、ケンブリッジ大学大学院修士課程修了(Master of Philosophy)。中世からバロック時代にかけての音楽、とくにイギリスの教会音楽史と中世の音楽理論を専攻。著作に、「ヘンリ8世の迷宮～イギリスのルネサンス君主」(共著、昭和堂、2012年)、「15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史」(共著、ミネルヴァ書房、2013年)、「ミクログス(音楽小論)」(共著、春秋社、2018年)など。

中世ルネサンス～バロック時代の音楽を研究しています。中世の音楽理論などと聞くと、遙か昔の難解きわまる話に聞こえるでしょう。でもじつは西洋音楽の根本を考えるということなのです。たとえばピアノの白鍵と黒鍵はどうしてああいう並び方をしているのか、ドレミの階名は誰がどうして考えたのか、音の高さやリズムを書き表すためにヨーロッパ人はどのような工夫を重ねてきたか……。当時の人々の立場に立ってその思考経路を追体験するのはとてもスリリングなことです。もちろん当時の音楽作品も素晴らしい。吟遊詩人が綴った愛の歌、ゴシック大聖堂に響いていた絢爛豪華なア・カペラの教会音楽、宮廷舞踏会を彩った典雅な舞曲……。みなさんにとって未知の傑作がどれほどあることでしょう。過去千年におよぶ音楽の宝庫に足を踏み入れ、感動し、名作がどのように作られたのか、誰によってどのように演奏されていたのか、音楽の知の探求にでかけようではありませんか!

Tenihiko
Nasu



広瀬 大介

一橋大学大学院言語社会研究科・博士後期課程修了。博士(学術)。専門は19世紀後半～20世紀前半のドイツ・オーストリア音楽、とくにオペラについて。著書に「リヒャルト・シュトラウス 自画像としてのオペラ」(アルテスパブリッシング、2009)、「帝国のオペラ」(河出書房新社、2016)、「オペラ対訳×分析ハンドブック シュトラウス/楽劇 サロメ」(アルテスパブリッシング、2022)など。

私が大学生の頃、1990年代は、毎年のように海外から歌劇場が来日し、豪華極まりないオペラの数々を上演していました。クラシック音楽好きではありませんでしたが、器楽を聴いたり弾いたりすることにしか興味がなかった当時の自分にとって、これらの上演は文字通り「衝撃」のひとつ。どうしてここまで心の心を揺さぶる音楽が生み出せるのか、その秘密を探りたい一心で、気がついたら四半世紀以上が経っていました。芸術には、ひとが自分の一生を捧げるに十分な魅力がある、と、いまならば断言できます。同じ情熱をもった学生さんにめぐり会えるこの場に身を置くことができ、いま私はとても幸せです。

Daisuke
Hirose



演劇 映像

演劇映像の領域では、演劇と映像という総合芸術の鑑賞・研究を通して、芸術の真価やその人生における意味を見きわめる目を養うことを目的とします。

現代の社会を生きる私たちの周囲には、生の舞台芸術はもちろんのこと、映画やテレビのようにメディアを利用した劇的芸術が氾濫しています。そうした演劇や映像の芸術をよりよく理解し、またそこから深い感動を味わうために、私たちは何をなすべきでしょうか？

演劇映像の名作に触れ、ほんものだけがもつ感動を味わうのが第一歩です。そして、古典のテキストをじっくりと読み込み、たしかな知識と鑑賞力を育むことが肝要です。

演劇は人類の歴史とともに歩んできました。舞台芸術、およびメディアを活用した映像芸術が成立するためには、多くの専門家が集い、各自の持てる力を十分に発揮することが

不可欠です。まさに総合芸術といわれる所以です。総合芸術としての演劇映像には、多様な鑑賞と研究の方法があります。古今東西の演劇映像の世界を、美術や音楽との比較を通じて学び、演劇映像が人類の文化や歴史において果たしてきた役割について考えていきましょう。

日本古典芸能

日本における芸能や演劇の歴史について学び、広い視野の上に立って、歌舞伎や能楽など各時代の事例を取り上げます。わが国には古来どのような芸能や演劇が存在してきたのでしょうか。また近代への移行期には、西洋文明や文化との出会いによって、日本の演劇はどのような変化をとげてきたのでしょうか。芸能と演劇の概念やその関係、また芸能の場や劇場形態、芸能者や俳優、観客などの諸問題を考えます。

西洋演劇

ヨーロッパの古代から現代まで2000年以上におよぶ西洋演劇の歴史を把握し、上演を前提としたテキスト(戯曲)の読解を行います。演出家、制作者、役者、舞台美術家、音楽家など演劇にたずさわる人々の仕事を学び、演劇に関するさまざまな視座を構築することを狙いとしています。芝居が上演された時代や社会背景に留意しつつ、舞台芸術の本質を追究していきましょう。

映像・映画

無声からトーキー、白黒からカラー、フィルムからデジタルへと、たゆまなく過激な変化をとげてきた現代のメディアの世界を研究の対象とします。映像、音響、時間、編集、鑑賞環境といった諸テーマを設定しつつ、映像や映画を批判的に学ぶ眼力を養います。さらに、映像メディアの誕生と発展が、今日の社会におよぼした影響についても考究していきます。

Message

Katsura
Sato



佐藤 かつら

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士(文学)。鶴見大学文学部専任講師、同大学准教授を経て2012年に青山学院大学文学部に着任。専門は日本芸能史、特に近世近代移行期の歌舞伎。著書に「歌舞伎の幕末・明治—小芝居の時代」(ベリかん社、2010年)、共著に「円朝全集」第一・十一・十二巻(岩波書店、2012年・2014年・2015年)等。近年の論文に「女優者と近代—その出発点」(『アジア遊学』232、2019年3月)ほか。新潟県生まれ。小さいころから祭礼の芸能を喜んで見物していたことが、今思えば、歌舞伎の研究をしている自分の原点となっています。

歌舞伎を研究しています。主に幕末から明治期の変革期の歌舞伎が対象です。西洋文化の衝撃を受けて変化していく歌舞伎のあり方、かつてはいた女性の歌舞伎俳優のゆくえなど、興味は尽きません。

授業では歌舞伎に限らず、能・狂言、人形浄瑠璃(文楽)、落語などの古典芸能を担当しています。新入生の多くみなさんにとって、私の担当分野はなじみが薄いものでしょう。しかし私自身、初めて歌舞伎を見たのは大学二年生の時でした。その衝撃はいまも忘れません。出会いはどこに転がっているか、誰にもわかりません。どうか自ら壁を作らず、いろいろなものを見聞し、体験してください。日本の古典芸能の魅力がみなさんに伝わるよう、私も最大限努力していきたいと思えます。



三浦 哲哉

東京大学大学院総合文化研究科超域文化研究科表象文化論コース博士課程修了。博士(学術)。専門はおもにアメリカとフランスの映画表現論、食文化論。著書に「自炊者になるための26週」(朝日出版社、2023年)、「LAフード・ダイアリー」(2021年)、「食べなくなる本」(2019年)、「『ハッピーアワー』論」(2018年)、「映画とは何か——フランス映画思想史」(2014年)、「サスペンス映画史」(2012)。共著に「オーバー・ザ・シネマ——映画「超」討議」(2018)。

おもにアメリカとフランスの映画表現について研究しています。映画が生まれたのは19世紀末で、130年近い歴史を持っています。時代ごと、地域ごとにまったく異なる美しさがあります。たとえば1920年代までのサイレント映画にしかない、純粹な視覚体験の迫力があり、1930年代の(テレビ普及以前です)真の黄金時代ならではの端正な構成美があり、1950年代フランスに生まれた現代映画のまばゆいばかりの瑞々しさがあり……等々。個性豊かな映画作家たちが、歴史を彩ってきました。授業では、演出・演技・撮影・美術・音響・特殊効果などさまざまな観点から、多種多様な映画のよろこびを学生のみなさんと共有したいと思っています。

Tetsuya
Miura



Yuriko
Inoue



井上 由里子

大阪大学大学院文学研究科美学文芸学専攻博士後期課程単位取得退学。博士(文学)。静岡文化芸術大学専任講師、同大学准教授を経て2023年に青山学院大学文学部に着任。専門は西洋演劇史、とくにフランスの現代演劇。共著にValère Novarina. *Les tourbillons de l'écriture* (Hermann, 2021), *La république des traducteurs. En traduisant Valère Novarina* (Hermann, 2020)など。共訳書に「シャルロット・ベリアンと日本」(鹿島出版会、2011年)。

西洋演劇、とくにフランスの現代演劇における古典の受容について研究しています。日本の公教育には演劇が導入されていないため、西洋演劇の古典と言われてもピンとこないかもしれません。けれどもブロードウェイ・ミュージカルの「マイ・フェア・レディ」や「ライオンキング」の背景をひもといてみると、そこには西洋演劇から東洋の伝統芸能まで、じつに様々な古典の技が息づいています。テレビや映画でおなじみの「ドラマ」も、語源をさかのぼれば、古代ギリシアの哲学者アリストテレスの演劇論『詩学』にたどりつきます。どうやら私たちは知らず識らず東西の演劇の古典を吸収しているようです。

授業では、劇場にも足を運びながら、今を生きる古典の瑞々しさを味わい、皆さんとともに学びを深めていければと願っています。

Interview

比較芸術学科はどんな場所? 学生インタビュー ●美術 ●音楽 ●演劇映像

広瀬 まずは、この学科を志望した理由、入るためにどんな勉強をしたか、どんなことに興味があるかを教えてください。

佐藤 幼少期から絵を描くことが好きで、美術作品に対する関心がもともと高かったなと思います。また、母が音楽好きで、ピアノを習っていた時がありました。私が通っていた中高一貫校では、講演会の感想や意見を紙1枚にまとめて提出する課題があったので、特別な小論文の対策はしなかったです。ただ、過去問を見て、美術や音楽、映像だったら、どんなことが書けそうかなと戦略を立てる訓練はしていました。美術なら印象派やルネサンスの美術が好きだったので、知識を学んだり、関心を持って本を読んだり。

宮本 高校時代に師事してたピアノの先生が、演奏技術だけでなく、曲の作曲背景や作曲家自身の話もしてくださる方で、音楽分析にも興味を持っていました。比芸の入試は小論文の重要性が高いですが、対策を立てたくても過去問がまだ少ないですね。学校の先生に相談して、他大学の音楽関連の学部・学科の小論文の問題を使って対策を立ててました。過去問を見ると、毎年、若干設問の傾向が違っているので、さまざまな方面から考えて、

違う文章を書けるように、どの角度からその曲について聞かれても答えられるように、説明する訓練を意識していました。

橋本 一般入試ではなく指定校推薦でした。私は女優とその演技に興味があり、三浦先生のゼミ宿舎では映画を撮影することを知って、それに参加したいと思ったんです。指定校推薦の場合、勉強方法はもう学校の成績を良くするしかない(笑)。中間テストや期末テストの前、朝3時ぐらいに起きて、学校に6時半ぐらいに着いて勉強するのが、我ながら青春って感じでした。指定校推薦用の小論文については、あらかじめ課題が出されていたので、演劇だけでなく、美術や音楽に関する知識を得つつ書きました。

広瀬 皆さんは高校時代に、かなり芸術を勉強してきたと思います。大学に入ってからさまざまな授業を受けてきたと思いますが、自分の興味を伸ばすことはできましたか? 自分が属しているゼミの先生の魅力について、語ってもらえると嬉しいです。

佐藤 津田徹英先生は、東洋の美術、特に仏像を研究されていますが、西洋美術やアニメ、漫画にも幅広く関心を持たれていて、ゼミでも

自由に好きな作品を選んで、比較・研究してほしいと仰ったのが印象的でした。ゼミ発表では、尾形光琳の『燕子花図屏風』と、俵屋宗達の『風神雷神図屏風』を比較しました。燕子花図屏風は緑青と群青をメインに使われているので、金地と色彩的な対比がある。一方で、風神雷神図屏風は白・緑・黒がメインで使われているので、金地を背景とした時に浮いてしまう、などを指摘しました。また、風神雷神図屏風は三種類存在するのですが、津田先生からは、「3作品はどのような順番で作られたか、表現の違いはどこにあるかを考えると、技術・作品の比較になる」と教わりました。とても授業が面白く、馴染みのなかった仏像にも親近感を持って接するきっかけとなりました。

宮本 私は中世・ルネサンス・バロック音楽の那須輝彦先生と、近現代音楽の広瀬大介先生のゼミに同時に所属しています。今年度、那須先生は研究休暇で1年お休みなので、代わりに担当くださっている藤原一弘先生のゼミでは、古楽器を実際に見学に行ったり、プロの演奏家の人たちをお招きして実際に演奏していただいたりする機会があります。広瀬先生のゼミは、和声法の勉強と楽曲分析を毎回メインでやっていて、オペラなど実際の舞台・

演奏会の鑑賞の機会があります。両方のゼミを受けてみて、時代によって、音楽を聞く受け手の姿勢が全然違うことに驚きました。クラシック音楽って古い昔の音楽みたいな感覚で捉えられがちかと思うんですけど、その音楽を初めて聞いた当時の人の立場を考えて、はじめて見えてくるものがありますね。比芸でさまざまな時代を勉強して、あらゆる角度から音楽について考えると、音楽の聞き方や弾き方も変わるんじゃないかなと思います。

橋本 私は三浦哲哉先生のゼミに所属しています。三浦先生のゼミは主に古典映画を中心に研究していて、毎回学生発表があります。今年度は、ジョン・カサヴェテスの監督作品を時代ごとに発表していく形で、私は『こわれゆく女』という映画を担当しました。グループ発表の3人が違う視点から発表するため、私はカメラについて研究しました。ただ、最低でも3回映画を見ないと行けなかったのですが、精神的にしんどい映画だったので、それが辛かった。

三浦先生からは、まず映画のタイトルと日本語のタイトルがなぜ違うのか、そこについて触れなかったのはなぜか、と指摘を頂きました。自分たちの担当した映画だけではなく、他の作品も見ないと行けなかったのですが、白黒映画で字幕もなく、正確には読み取れなかった。古典映画における描写手法への理解も必要だなと痛感しました。



【参加メンバー】
司会：広瀬 大介(本学科教授、西洋音楽史研究)
(以下、写真左から順に)
【音楽】西洋音楽専攻(那須ゼミ)
3年 宮本 茉奈
【演劇映像】映像専攻(三浦ゼミ)
3年 橋本 里々花
【美術】東洋美術専攻(津田ゼミ)
3年 佐藤 帆菜



広瀬 では、学生生活の楽しさ、あるいは先生方の魅力などについてもお話しください。

佐藤 比芸の先生方って、皆さんフレンドリーですよ。1学年が100人いない小規模な学科なので、先生も学生の顔をだいたい覚えてますよ、みたいな感じで接してくれます。先生同士の仲もかなりいいのでは(笑)。

広瀬 仲いいと思いますよ。会議も飲み会も和気あいあいとやっています(笑)。

橋本 三浦ゼミは、本当に映画が好きの人が多くて、自分はこの監督が好きだけど、別の人はこの監督が好き、みたいな。互いの「推し」を尊重している雰囲気はありますね。

広瀬 好きなものが同じひとたちが集まる集団ってというのは、社会全体を見回してもなかなかないんじゃないかな。他の学部・学科の学生とかと喋っても、比芸の学生はかなり雰囲気が違う気がする。

橋本 変わってるね、って言われます。うん、やっぱり、比芸っぽいみたいところはありますね。(笑)

宮本 1、2年生が終わって、3年生になると、青山スタンダード(一般教養科目)もなくて、のびのび好きなことだけ勉強できるから、趣味の延長で大学に行ってる感じの人が多くなってると思います。私を含め、だから、勉強が苦じゃない。

広瀬 最後に、受験生へのメッセージはありますか?

佐藤 比較芸術学科を目指すとなると、日本史あるいは世界史を勉強されている方が多いんじゃないかなと思うので、政治・社会と文化史

がどのようにかかわっているかを気にしながら勉強すると、実際の作品の理解が深まり、より好きになることができるはずです。

宮本 私は入学する前から、ここに入ったら絶対に音楽をやる、って決めていたタイプですが、さまざまな分野に触れて、あれもいいな、これもいいなっていう風を楽しむ余裕も重要だな、と思えるようになりました。この大学は、周りに美術館、コンサートホール、小劇場などが数多くあって、芸術のことを勉強するのに恵まれた環境にあります。そこから全部吸い取ってやるくらいの勢いを持って、自分から勉強できた方が楽しいんじゃないかな。

橋本 視覚、聴覚に加えて、嗅覚、匂いをかぐことを大事にした方がいいかなと思います。例えば映画館へ行ってそこでしか味わえない匂いとか、ポップコーンの匂いとか、美術館行くまでの道のりの公園で感じられる匂いを大事にしてほしいな、と。

広瀬 嗅覚ですか。グルメな感覚も大事にされる場所は、まさに三浦ゼミ生の鑑ですね(笑)。

今日は本当にありがとうございました。皆さんの残りの学生生活が豊かなものになるよう、我々教員も全力で頑張ります!



卒業生からのメッセージ

自分の“好き”に正直になれる場所



静岡放送株式会社
比較芸術学科2019年度卒業
影島 亜美

「舞台鑑賞や美術館巡りが“好き!”」自分の“好き”を趣味のままにせず、専門的に学んでみたいという思いから、比較芸術学科への進学を選びました。授業では、古今東西の美術を学んだり、演劇や歌舞伎、落語、音楽など幅広い分野の舞台を鑑賞したり…。生の芸術に触れ、芸術をこよなく愛する先生方のご指導を受けられたのは、本当に幸せな経験でした。また、比芸に所属

する友人たちは、とても個性豊か!同じ作品を鑑賞しても、それぞれが異なる感想を持ち、熱を持って語り合える環境が嬉しかったです。

現在、私は地元静岡の放送局のアナウンサーとして、テレビ・ラジオ番組を担当しています。芸術や手仕事の分野で活躍する方とお話する機会も多く、比芸で得た知識が今の仕事にも生きています。皆さんも、ぜひ比芸で輝く思い出を作ってくださいね!

感動は無限だと知った4年間



東映株式会社
比較芸術学科2022年度卒業
三宅 萌

ミュージカルについて多角的に学びたいと思いついた。西洋演劇に限らず様々な芸術に触れる中で、気付けば私は映画に惹かれていました。舞台とはまた違う、より自由な表現を許された映像芸術の面白いこと…!シネフィルの同期たちに比べると劣等生だった私の拙い意見にも、友人や先生は丁寧に耳を傾けてくれました。

「誰の感性も否定しない場所」。それが比芸です。大学での学びは、私の感性を鋭くも優しくしてくれました。高校時代、進路に悩み抜いてここに決めた自分に、よくやったと言いたいです。

今年の4月からは映画会社に勤めています。配属先は、なんとテレビ関係の部署。また新たな世界への挑戦ですが、比芸で培ったものを忘れず、精一杯仕事したいと思っています。

私を思いがけない未来に連れてきてくれた比芸に、心からの感謝を込めて。

芸術に浸かった四年間とその後

田舎から上京した私にとって、「芸術」を愛する人々の集う比芸は、カルチャーショックでした。刺激的な友人たちとのアート談義や、資料に裏付けられた先生方の講義から多くを学びました。

授業の間には、美術館やギャラリーを巡り、古今東西の作品と接しました。GALLERY KTO(株式会社ブロードス)ポール・セザンヌの美しい絵画、スポーツ・資本主義・美術をテーマに、言葉とイメージの関係を検討した展覧会は、今でも忘れられません。卒業論文は、美術館で見たセザンヌの静物画をテーマに執筆し、親身なご指導を賜りました。

さて、現在私は、アートギャラリーに勤務し、展示企画やアーティストのサポートを行なっております。同時代の芸術を考えると、比芸で学んだ美術史の知識は生きています。歴史研究と作品鑑賞を自由に行き来できる学生時代は、最高に楽しいですよ!



GALLERY KTO(株式会社ブロードス)
比較芸術学科2020年度卒業
橋爪 大輔

知の源泉を訪ねて

卒業から早いもので数ヶ月。思い出すと、大学時代は何にも代え難き贅沢な時間であったと実感します。講義を受けてはその足で美術館へ、休日はコンサートに演劇など、学生証を携えて東京の文化施設を駆け回る日々でした。コロナ禍が落ち着いてからは、好きが高じて岩手県でのアートプロジェクトの立ち上げに参画したり、憧れのウィーンに行ったり。そんな時間を紡ぐ中で、偶然にも新聞社の文化事業の存在を知り、今に至っています。

芸術は言わば「知の源泉」。この学科での学びが、ビジネスの世界においてアイデアのヒントになっています。社会人としては駆け出しの身ですが、ここで得た知見を糧に、近い未来、日本における芸術文化の発展に寄与したいと思っています。

皆さんもこの青山の地で、ご自身の「好き」を大いに開拓していきましょう。



株式会社毎日新聞社
比較芸術学科2023年度卒業
奥 萌奈

特別授業の紹介

一年生の必修科目「比較芸術学入門A・B」をはじめとする比較芸術学科の専門科目では、ときおり芸術諸分野の専門家をゲストスピーカーとしてお招きし、特別授業を実施しています。また、比較芸術学会大会でも毎回各分野を代表する研究者や実演者・制作者の方々に講演をお願いしています。2022年度と2023年度に行われた特別講演をご紹介します。

第10回比較芸術学会大会《2022年度》 濱口竜介氏トーク「映画と笑い」

世界の映画祭、批評家連盟から数多くの賞を授与された『ドライブ・マイ・カー』などの作品によって、近年世界的な注目を浴びる映画監督・濱口竜介氏をお招きしました。テーマは「映画と笑い」。伝説の無声喜劇俳優バスター・キートンから、フランスの喜劇作家ジャック・タチを経て、ポルトガルの巨匠マノエル・デ・オリヴェイラ。ミュージカル・コメディのダンサーたちに至るまで、監督が敬愛する映画人たちの豊かな事例を縦横無尽に挙げつつ、映画の笑いの奥深さについて語っていただきました。



第11回比較芸術学会大会《2023年度》 金井直氏「解れる美術史 彫刻をめぐる、彫刻をめぐるながら」

近現代美術における彫刻と写真の交差を鋭利な視点で浮かび上がらせた単著『像をうつす 複製技術時代の彫刻と写真』が高い評価を受けている美術史家・金井直氏にご講演をいただきました。学生時代、学芸員時代、そして教員の今にいたるまでの意識やご活動の変化を、それぞれアントニオ・カノーヴァ、ジュゼッペ・ペノーネ、さらにコンテンポラリーアートへの関心と結びながら、美術(史)に向き合うことのおもしろさをお話いただきました。独創的な思考、滑舌の良い語り、精緻に構成された投影画像に圧倒されつつ、貴重な示唆をいただきました。



課外ワークショップの実施

比較芸術学科では、美術館・博物館、あるいは、劇場・ホールに向かい、美術・音楽・演劇映像のホンモノに触れる機会を設けています。毎回、鑑賞後には事前に提示された課題に則ったレポートの提出が求められています。鑑賞後のレポート作成は自分が感じたことを言葉にし、他人に伝えるという訓練に直結しています。



2024年度の予定は以下の通り。

6月 ■日本・東洋の美術作品鑑賞(東京国立博物館)

7月 ■歌舞伎鑑賞教室(国立劇場主催公演)

後期 ■日本フィルハーモニー交響楽団定期演奏会

比較芸術学会

本学科には、授業と課外活動のほかに、学生のみなさんが協力しあいながら自主的に学び、研究の成果を発表するための学会組織「青山学院大学比較芸術学会」があります。2013年度に設立されたこの学会は、学生全員と専任教員を主な会員とします。活動内容は次の通りです。芸術全般についての専門的な研究成果を発表する学会誌『パラゴネ』の発行(年1回)。学生が主体となって、芸術や文化について自由に執筆する『HIGE会報』の発行(年3~4回)。比較芸術学会大会の開催(年1回)。また、美術・音楽・演劇映像の各分野に「研究会」があり、それぞれ鑑賞会や勉強会を定期的に開催しています。学会活動を通して、学生のみなさんに自ら学ぶことの面白さを存分に体験していただきたいと希望しています。



大学院 文学研究科 比較芸術学専攻

本専攻は、急激に変化しつつある今日の国際社会や地球環境のなかで、社会や自然と芸術との関係、および芸術がこれまでの人間の歴史や社会に果たした役割などを改めて考えることを基本としています。したがって、芸術系諸学との相互関係はもとより、歴史や哲学、文学をはじめとする人文科学系諸学とのそれをも踏まえながら深く掘り下げ、研究することがその目的です。

本専攻で取り上げる領域は学部段階(本学文学部比較芸術学科)と同じく、芸術系諸学のなかでも中心的かつ古典的な研究の蓄積をもつ美術史学、音楽学、演劇映像学の諸分野であり、志望する学生は、各自希望する領域の基礎的学力を備えていることが前提となります。そして、入学後はその基礎のうえに立ってそれぞ

れ専門分野の研究に入りますが、そこでは常に上記の他領域に関心のまなざしを向け、それらとの比較をつうじた専門的な視野が要求されるでしょう。

授業は、実作品の鑑賞研究を中心に、文献史料の読解力を蓄える原典講読や論文執筆のための文章力を鍛えるレポート作成、そしてプレゼンテーション能力を高める課題発表などで構成されています。博士前期課程では、そのそれぞれについて学部段階よりはいっそうの充実が求められ、成果を修士論文としてまとめることとなり、また同後期課程では、学会発表や学術誌への投稿を経て、博士論文の作成が最終の目的となります。これらの研究過程で、専門分野における社会貢献や就職の道もひらかれることでしょう。

比較芸術学専攻 博士前期課程

授業科目		
基礎科目	比較芸術学研究法I、II	比較人文科学研究法I、II
専門科目	日本・東洋美術史(1)研究I、II 日本・東洋美術史(2)研究I、II 日本・東洋美術史(3)研究I、II 西洋美術史(1)研究I、II 西洋美術史(2)研究I、II 西洋美術史(3)研究I、II	日本・東洋美術史(1)演習I、II 日本・東洋美術史(2)演習I、II 日本・東洋美術史(3)演習I、II 西洋美術史(1)演習I、II 西洋美術史(2)演習I、II 西洋美術史(3)演習I、II
	日本・東洋音楽史研究I、II 西洋音楽史(1)研究I、II 西洋音楽史(2)研究I、II	日本・東洋音楽史演習I、II 西洋音楽史(1)演習I、II 西洋音楽史(2)演習I、II
	日本芸能論研究I、II 西洋演劇論研究I、II 映像文化論(1)研究I、II 映像文化論(2)研究I、II	日本芸能論演習I、II 西洋演劇論演習I、II 映像文化論(1)演習I、II 映像文化論(2)演習I、II
研究指導	研究指導演習I、II、III、IV	

学生インタビュー



比較芸術学専攻
博士前期課程2年
久保 翔誠さん

私は高校時代演劇部に所属しており、そこで演劇の魅力に取り憑かれてしまいました。大学では、学問として演劇を学びたいと思い、美術・音楽・演劇映像の3分野を、洋の東西問わず学ぶことができる比較芸術学科に入学を決めました。当初は西洋演劇に関心があったのですが、学部1年生の夏、芸術鑑賞教室で初めて観た歌舞伎に衝撃を受け、すっかり古典芸能に魅了されてしまい、さらに学びを深めるために大学院への進学を決めました。現在は、初代桜田治助という狂言作者について研究しています。

比較芸術学専攻の魅力は、そこに集う人のおもしろさです。各々の領域から、多彩な背景を持つ同志が集い、共に学問を探究できる環境は唯一無二であり、日頃から級友に刺激を受けていると実感します。また、先生方との距離もぐっと近くなり、専門分野について、より深く、より親身になってご指導いただくことができます。現在私は、修士論文を執筆していますが、比較芸術学専攻でじっくりと研究に打ち込む2年間は、同時に自分自身と深く向き合う時間でもあると感じています。

修了生からのメッセージ



郡山市立美術館
比較芸術学専攻
2020年度修了
鈴木 えみこさん

深く学び、広く知る

比較芸術学科を目指す人の中には、「学芸員」なんて仕事もいいな、と考えている方もいるかもしれません。私も一度企業に就職した後に、やはり学科で学んだことを活かして働きたいと思い直し、大学院に入りました。

大学院では研究に打ち込み、そして研究方法を体得していくことが大切です。しかし実際の学芸業務では、一つの研究だけに没頭していればよいという事はほとんどなく、様々な地域や時代の文化芸術についての知識も必要とされます。その意味では、比較芸術学科・専攻で広く芸術分野について学んだことは、私の今の仕事においてアドバンテージになっていると思います。

比較芸術学科から学芸員を目指す人には、大学院では研究について多くの先生方や友人達と話し、学外でも学会・勉強会に参加する、博物館でのインターンやアルバイトなどを通して、フットワークを軽く、視野を広くすることをお勧めします。学生特権を活用して、将来設計に役立てましょう。



歌手・文筆家
2020年度修了
ゆつきゅんさん

あなたの言葉で芸術を語るために

高校生の時から映画、美術、音楽などの芸術に幅広く興味があり、なぜ自分がその作品に魅力を感じるのか語れるようになりたいという思いで比較芸術学科に進学しました。同時代的なカルチャーへの関心が強い自分だからこそ、歴史を学び、文脈への理解が深まるこの学科を選択してよかったと改めて思います。芸術は突然変異的にひとつだけ発生することはないと知りました。好き嫌いの良い悪いの区別もつくようになりました。

青山学院大学は日本最高の立地です。とにかく渋谷で映画を観て、とにかく大学図書館で文献を読んで、出来る限り言葉で表現していくことに時間を費やせた学生期間はかけがえのないものでした。

大学院では修士論文のテーマに迷ったこともあり、さらに領域横断的な学びを得ることが出来ました。芸術を言葉にすることは芸術であり、言葉の本体は心と頭です。歴史と他人の視点に積極的に潜り込み、あなただけの審美眼に辿り着いてください。

卒業後の進路

本学科の学生には、芸術分野への道はもちろん、文学部の他学科と同じように、一般企業への道も広く開かれています。

取得可能な資格

学芸員、司書、社会教育主事



2023年度 進路・就職先

<ul style="list-style-type: none"> ■大学院・大学・専門学校 青山学院大学大学院 筑波大学大学院 Vancouver Institute of Media Arts ■建設業 旭化成ホームズ(株) ショーボンド建設(株) タマホーム(株) ■製造業 中外鉱業(株) 森永製菓(株) ■情報通信業 (株)IDホールディングス (株)あたらす二十一 (株)いえらぶGROUP xxx(株) カルチュア・エンタテインメント(株) (株)コーエーテックモゲームス (株)コントロールテクノロジー (株)SAMANSA (株)昭和システムエンジニアリング (株)Spade&Co. (株)第一情報システムズ TISシステムサービス(株) (株)TBSグロウディア 	<ul style="list-style-type: none"> (株)東京ニュース通信社 (株)Donuts トランス・コスモス(株) (株)PIVOT (株)フォーク (株)毎日新聞社 (株)六曜社 ■運輸業・郵便業 (株)JALスカイ ■卸売業・小売業 (株)キャン (株)そごう・西武 (株)羽田エアポートエンタープライズ (株)松屋 八木通商(株) ■金融業・保険業 (株)静岡銀行 日新火災海上保険(株) ■不動産業・物品賃貸業 (株)映像センター (株)ザイマックス (株)東急コミュニティー ホームネットグループ(株) 三井不動産リアルティ(株) 三菱地所コミュニティ(株) 	<ul style="list-style-type: none"> ■生活関連サービス業・娯楽業 エイベックス(株) (株)STARDUST HD. (株)ホリアポ ■その他のサービス業 (株)クリーク・アンド・リバー社 (株)ケー・アンド・エル (株)サーキュレーション SHIRUSHI DESIGN FACTORY (株)ジェイアール東海バスセンター (株)丹青研究所 (株)テー・オー・ダブリュー 日研トータルソーシング(株) (株)Bennu レバレッジズ(株) ■公務 地方公務員(特別区)・東京都
---	--	---

※アイウエオ順

入試情報

詳細は本学ウェブサイトでご確認ください。▶ <https://www.aoyama.ac.jp/>

【一般入学試験】

	募集人員	Web出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日
全学部日程	約5名	2025年1月6日(月) ~1月20日(月)23:00まで	2025年2月7日(金)	2025年2月14日(金)	2025年2月21日(金)
個別学部日程	約45名	2025年1月6日(月) ~1月22日(水)23:00まで	2025年2月14日(金)PM	2025年2月22日(土)	2025年3月3日(月)

※出願書類提出期限は、全学部日程はWeb出願期間締切日3日後、個別学部日程はWeb出願期間締切日2日後郵送必着です。
※入学手続締切日までに、入学金を除く学費等についての延納(入学申込手続)を希望した者の入学完了手続締切日は2025年3月14日(金)です。

【自己推薦入学試験】

出願資格は、次の(1)~(3)のすべての項目に該当する者。

- 以下の①または②のいずれかに該当する者
 - 2025年3月に日本の高等学校(または中等教育学校の後期課程。以下同じ)を卒業見込みの者※
 - 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を2025年3月31日までに修了見込みの者
- 本学科を第一志望として本学科へ進学を希望する者
- 以下の①または②のいずれかに該当する者
 - 高等学校における「全体の学習成績の状況」が4.0以上である者

②下記、3点すべての要件を満たす者

- 高等学校における「全体の学習成績の状況」が3.8以上であること
 - 高等学校における「外国語」の「学習成績の状況」が4.2以上であること
 - 高等学校における「世界史探究」または「日本史探究」のいずれかの「学習成績の状況」(設定の平均値)が4.2以上であること
- ※日本にある外国人学校(インターナショナルスクール等)を卒業見込みの者、「高等学校卒業程度認定試験」合格者は含みません。

	募集人員	選考方法	出願期間	合格発表日
第1次審査	約8名	書類審査	2024年9月30日(月)~10月3日(木) 郵送必着	2024年11月15日(金)
↓ 第1次審査合格者のみ ↓				
	選考方法	試験日	合格発表日	入学手続締切日
第2次審査	芸術に関する基礎知識、面接	2024年11月23日(土)	2024年12月3日(火)	2024年12月13日(金) 郵送必着

知っておきたい Q&A

Q 学科名の“比較”には、学ぼうえでどのような意味があるのですか?

例えば芝居やミュージカル、映画には“美術”と“音楽”が不可欠です。そのため、ふたつの分野を比較しながら作品を探究すれば、より深い理解が得られます。こういったジャンル間の比較学習、あるいは時代間の比較学習や地域間の比較学習などを通して、両者の類似性、異質性に気づいたり、関連性、独自性を知ることができ芸術探究が進展する。そこに比較学習の優位性があります。

Q 21世紀の現代に、古典を重視して学ぶのは、なぜですか?

音楽でいえばクラシックからジャズ、ロックへというように、時代も前衛を走る芸術は、それ以前の伝統を踏まえ、そこに異議を唱えて登場してきます。歴史に磨き抜かれた古典の原典と真摯に向き合えば、現代でこそ新たな可能性を発見できるはず。歌舞伎も、シェイクスピアも、そこに現代の解釈や演出を行えば現代の作品に生まれ変わる。古典には、それだけの奥深さがあるからです。

Q 実体験に基づく教育とは、どのようなものですか?

鑑賞体験を深めるための実技授業があります。それ自体をメインで学ばずにはありませんが、イコノロジー(図像学)でいえば、自らスケッチをすることで、描かれたモチーフの意図や解釈の手がかりとします。なお、鑑賞を促すために、本学は国立の美術館・博物館と提携、青学生は常設展の無料鑑賞が可能です。演劇や音楽の鑑賞についても、学生ならではの割引制度を各種用意しています。

Q この学科で学ぶと、どのような教養が身につきますか?

“芸術”は人類の根源的な営みであり、時代を映す鏡に例えられます。なかでも古典を学ぶことは、人間の本质を理解することであり、自分自身の人間形成につながります。どのような社会や環境に身を置いても、自信をもって考えを表明したり、異文化の相手とも円滑に対話できるような寛容さを養うことができるはず。そして、現代に求められている人間性を尊重した課題解決力も身につくでしょう。